

あま市民病院だより

★不定期連載 消化器コラム★

第10回 悪性腫瘍による食道狭窄

その患者様は80代男性でした。慢性の呼吸器疾患で通院しておりましたが、逆流性食道炎があるので内視鏡検査をしてほしいと依頼を受けてから担当することになりました。上部消化管内視鏡検査では食道はかなり狭窄しておりましたので、食事は通過することはできなくて点滴で治療を行うことになりました。食道バルーン拡張術をおこない経口摂取できるようにする予定でした。内視鏡検査のときに行った病理組織検査では、扁平上皮癌と診断されました。高次医療機関に外科治療も含め治療を依頼しましたが、慢性呼吸不全のため侵襲のある治療はできないとお返事とともに私のもとに戻ってまいりました。もともと身寄りはないとのことでしたが、娘さんが今回の治療のことで連絡がとれるようになり、十分な説明をしたうえで食道ステント留置術を行うことになりました。食事もある程度摂取できるようになり、点滴も抜去することができました。その後、約1か月程度は在宅療養となっておりましたが、悪性腫瘍の終末期として再入院しました。『俺は、父親に大事にされて好き放題にやってきた。友達もたくさんできた。家族には不自由させたが、最後に娘にも会えてよかった。』といわれ、娘様に見守られてお亡くなりになりました。

消化管悪性腫瘍に対して内視鏡下に消化管ステント留置を行うことがあります。ステントとは狭窄した部分を内側から押し広げる金属のメッシュのような医療器具のことです。処置には出血や消化管穿孔などの危険もあります。患者様の症状緩和のために行うときと結腸閉塞に対して外科治療を前提に行うときがあります。癌性腹膜炎のように狭窄部が多発しているときや、瘻孔があるときは適応外になります。最近では外科治療を前提に行う消化管ステント留置が広く行われるようになっており、結腸閉塞に対するイレウス管留置は少なくなってきています。

悪性腫瘍に対する消化管ステントのお話しでした。ときに病気を治すことはできませんが、患者様を励ましたりしながら、自分にできる医療を模索していきたいと思っています。

あま市民病院 消化器・内視鏡センター長 いわ た 岩田 まさ み 正巳



◇◆◇あま市民病院Facebookのご紹介◆◆◇

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

公益社団法人
MED 地域医療振興協会

あま市民病院

～市民と連携機関に信頼され、健康と安心を提供する病院～

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地

問合時間：午前8時30分～午後5時
(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>

